

琉球大学学術リポジトリ

カタカナ語を使用した異文化コミュニケーション教育に関する一考察 —英和辞書とブログを用いて—

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学国際地域創造学部国際言語文化プログラム 公開日: 2023-01-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 兼本, 円, 高良, 宣孝 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24564/0002019583

カタカナ語を使用した異文化コミュニケーション教育に 関する一考察

—英和辞書とブログを用いて—

兼本 円・高良 宣孝

1. はじめに

日本語の中には外来語が多く存在する。それを忌み嫌う人も多いが、当の本人達も何らかのきっかけで自分自身の語彙の中に外来語、特に英語経由のカタカナ語が定着していることに気づき、吃驚することがある（以後、英語を主とする外国語（特にヨーロッパ語）に由来する語をカタカナ語とする）。大学生とて同じようだ。「アリバイ」(alibi)の日本語は何かと尋ねると多くが沈黙してしまう。正解は「現場不在証明」であるが、現在の小説でもテレビドラマでも「現場不在証明」なることばは登場しない。「アリバイ」は日本語になりきっているのにも拘わらず、邪魔者扱いされている。最悪な場合にはカタカナ語を「若者ことば」として蔑視してしまうことになる。しかし、かつて若者であった人が現在の若者でも赤面してしまうようなカタカナ語を使用していた。一例として「モボ」「モガ」が挙げられる。この2語のカタカナ語の意味を知るには、国語辞書に頼るしかない。この2語は大正末期から昭和初期の流行語で、英語の modern boy と modern girl から成り立っている（英和辞書にこの2語の記載はなく、明らかに和製英語である）。しかし、同時にこの2語は日本語の英語をも吸収する造語力を示していることになる。さらに興味深いことに、山口（2007, pp.164-165）は、この2語が2006年版『現代用語の基礎知識』で「若者ことば」として解説されており、かつての「若者ことば」が復活する可能性があることを指摘している。

文化庁の「平成19年度国語に関する世論調査」では14.5パーセントの者がカタカナ語使用に対して「どちらかという和好ましい」として、「どちらかという和好ましくない」は39.8パーセントであった。しかし、前者の「好ましい」と思う者の理由として48.1パーセントが「日本語は昔から外来語を取り入れてきたから」、外来語で「日本語や日本文化が豊かになるから」として、積極的にカタカナ語を取り入れる姿勢を見せている。勿論、この調査は英語経由の外来語に関するものだけの調査ではない。しかし、「外来語の原語の内訳」を見ると、80.8パーセントが英語経由である（沖森他, 2011, p.120）。そうなると、現在英語教育が小学校3年生から始まる日本においては、日本語の中にカタカナ語が加速度的に増えて行くに違いない。単に「若者ことば」として一蹴することは賢明ではない。個人的経験の域をでないが、

筆者は小学生が「先生に宿題でアトランダムに本を読むように言われた」とこぼすのを耳にしている。「アトランダム」を統計のサンプリング法でしか使ったことのない筆者にとって、カタカナ語はもはや若者ことばではなく小学生のことばにもなりつつあると実感した。

カタカナ語に対して賛否両論あるには違いないが、筆者の立場ではカタカナ英語を日英両語の中で比較研究していき、異文化コミュニケーション教育の言語材料として取り入れたいと考えている。

本稿は次の順序で進行する。第2節ではカタカナ語の問題に触れて、第3節では日本語学習者が持つ英語の不安について触れていく。第4節では英和辞書3冊から収集した語彙データを紹介し、第5節ではブログ記事の中のカタカナ語の使用状況についてまとめる。第6節はまとめと以後の研究課題について記述する。

2. カタカナ語の問題

本研究の立場として明確にしておきたいことがある。それは、カタカナ英語を無条件に「良し」としているのではないということだ。その類の語彙の使用制限も必要である。その立場の参考になるエピソードを以下に紹介する。

80歳代の夫が長く胃の痛みを感じたために妻に付き添われて近くの病院に行くことになった。その年代特有の健康観もあってか夫はこの程度の痛みで病院に世話をかけることをよしとせず、妻に対して愚痴を言いながらの来院であった。病院で受付が終わり、「名前を呼ぶのでフロアーで待つように」と言い渡された。緊張のためか二人は「フロアー」が何のことでどこを意味するのか分からないまま「ハイ」と答えただけだった。その後二人は院内のフロアーを探し回ることになり、結局診察時間を失ってしまった。それほどある年齢層にとって病院は敷居が高いのである。同時にカタカナ英語は馴染みが薄いのだ。

この例はカタカナ語が日本語の一部となっていることも示しているが、その意味の捉え方が年齢層によって異なることも示している。このエピソードはポリティカル・コレクトネス(PC)へ広がって行く。病院関連の語としては「看護婦」ではなく、「看護師」である。さらに進んで「ナース」(nurse)もある。先ほどの夫婦にとってナースとはさらに分かりづらい。さらに、ひと頃前までの「看護婦詰所」も「ナース・ステーション」と称されている。このネーミングではどこに行けば看護師が控えているか分からないこともある。このように一つの語が他に変化する場合には他の関連する語にも波及するのが一般的である。しかし、だからこそ「カタカナ語」についての研究と教育が必要だといえる。では、言語学者はカタカナ語をどう見ているのか。

日本語のカタカナ語の問題を鈴木（1975, pp.97-98）は「片仮名外来語の第一の問題は、もとの言語ではまったく同じ言葉が日本語に入ると、相互の同一性が見失われることである」と論じている。ここで鈴木は日本語の問題としているが、例に使用されている語は英語である。よって、本稿の問題に適切な例だとして引用している。“driver”の一例では自動車を運転する人も「ドライバー」、ねじ回しに使う道具も「ドライバー」、ゴルフクラブの一種も「ドライバー」と別々に受け止められている。同じことばなのに意味の関連性を失ってしまうことを指摘している。driverにある根幹の意味を「何かに力を加え、ある方向に無理に押しやる」としている。次の例は“roll”である。この語の根幹の意味は「ころがす」なのでペンキを塗る際にも roller が使われ、「ローラースケート」でもその中の鉄玉がころがるのは当然とされる。さらに「ローラーカナリア」も美しい声で「ころがるように囀る」のでこのように命名されている。やはり、これらの例は日本語と英語学習の問題として捉えることができる。

次に「片仮名」ということばの問題を指摘したい。「片仮名」という語の定義そのものが持つ意味に注目すると問題の根深さが分かり易い。この語はどの国語辞書の定義を見ても「不完全」の意味がついて回っている（「かた」は不完全を意味している）。カタカナ語が日常に登場するようになって今でも深層レベルで「カタカナ語」が嫌われるということになる。論を戻して日本語学習者が持つ英語への不安とカタカナ語の関連を見ることにする。

3. 日本語学習者が持つ英語への不安

日本語を母語とする英語学習者が持つ不安は、自らが毎日使用していることばの中に英語のようなものが潜んでいるが、それは本物の英語ではない、英語のネイティブスピーカーには理解できないものだ、という不安である。その不安に拍車をかけるがごとく、巷では「ネイティブはそう言わない」の類の学習書が多数出回っている。これらの学習書の欠点は出口が見えてこない仕組みになっていることだ—communicative anxietyを増すばかりになる。さらに、大学生の多くは英語と日本語は同系統の言語ではないことを知っている。そのせいか逆に、ことばではなく心で通じ合うという意味で「中学生の英語で通じ合う」という類の本も出版されて人気を博しているようだ。

次に「毎日使用する言語」という原点に帰ってカタカナ語の価値を見直すことにする。当然ながら、日本人が毎日使うのは日本語である。次に毎日使う語彙として英語に近いカタカナ語を使っている。それを大切にしない限り、英語によるコミュニケーションへの自信は培えないと思う。異文化コミュニケーションの不安を解消するためには、「日英両語比較」より「カタカナ語と英語を比較する」というスタンスをとることが望ましい。その観点から、次節では英和辞書に掲載されている語彙をデータと

し、カタカナ語と英語を比較することでカタカナ語の価値を再評価する。

4. データ

現代英和辞書の役割の一つとして英語を日本人に分かり易く説明することが挙げられる。その際に古い説明ではなく時代に適した説明が要求されることに違いない。文字使いの観点からすると、ひらがなでもなく、漢字でもなく、ローマ字でもないカタカナ表記が頻用されることになる。本稿では以下の三冊の英和辞書をデータとする。1)『小学館ランダムハウス英和大辞典』(第2版、以降はRH)、2)『ジーニアス英和大辞典』(第2版、以降GE)、3)『研究社新英和大辞典』(第6版、以降KE)である。この三冊の中にある飲食物の項で説明の筆頭がカタカナ表記になっているものをデータとする。カタカナで表記される場合に多くの学習者がその語自体を日本語に近いと認識・意識して、親しみを覚える可能性があるからである(第1節の文化庁による調査のまとめを再度参照して頂きたい)。データを飲食物に限ったのは現在日本では様々な国からの飲食物が輸入されて、それらを日常目の当たりにすることができるからである。ここでも同じく親しみは倍増するに違いない。さらに、飲食物は次の観点から文化について考える好材料にもなるからである。

1) 飲食物は食するプロセスのみではなく、視覚で確認されるため色の代表になりうる。広く言えば、文化的認知を学ぶことができる。2) 飲食物は肉体の一部(指、頭部、顔、その他)として喩えられることがある。従って、文化的な喩えを学ぶきっかけになる。3) 飲食物はしばしばそれを好む人間全体として喩えられる。つまり、異文化に対する偏見を学ぶことが可能である。4) 異文化の「味」について学ぶきっかけになる。飲食物には「味」がある。味も文化的な捉え方がある。例えば、日本語辞書には数多くの食物の説明として「味」が登場するが、英和辞書にはその記述は殆どない。アメリカが日本より遥かに多くの国民を受け入れていることから「味」について一緒に話にできないのであろう。

上記の視点を全て含めながら以下に辞書データを記すことにする。

(1) BACON

既述の3冊の辞書でも1957年版のKEでも筆頭表記は「ベーコン」である。日本人の食卓でもファーストフード店でもはや「ベーコン」は珍しくはない。しかし、それが慣用句として「生計の資を稼ぐ」(bring home the bacon)とされることに気づくきっかけにはならない。“bacon”が「ベーコン」と脳裏に刻まれて、意味の広がり停止するのではないだろうか。この語もアメリカ人にとって何を「主な食材」とするかの説明が必要である。つまり、異文化コミュニケーション教育の一材料になりうる。

(2) BAGLE

「ベーグル」ももはや日本でも珍しくない。三冊の辞書にも「ベーグル」として筆頭にある。しかし、編集元も正確を期してのことだろう。次のような記述がある。

RH: イースト入りのきめの細かいドーナツ形ロールパン。

GE: ドーナツ型堅いパン；ユダヤ人の伝統的なパン。

KE: イースト入りの生地をリング形にして、いったんゆでてからオープンで焼き上げるユダヤ風のパンの一種。

この記述には問題が二つ潜んでいる。RHの場合の「ドーナツ形」とKEの「リング形」である。ドーナツは、伝統的なアメリカ式で捉えると浮輪の形をなしているが（真ん中が空いている）、英国式では丸い団子形もある。現在では両国に二つの形がある。この例は「英米」と一つの文化として捉えることも可能だろうが、「違い」もあることも強調できる。「英米」という概念ではその「違い」が学べない。もう一つの問題は、GEとKEでは「ユダヤ人」と記されているが、その物の起源が記されていることが逆に世界的な人気が局地的に留まっているかの誤解を生む可能性を秘めている。KEの「ユダヤ風」なる記述もそれが何を示すか明確ではない。要注意という点で異文化を学ぶ好材料となる。

(3) CAULIFLOWER

3冊の辞書の筆頭の説明は「カリフラワー」である。一見特徴が見られない気もする。

RH: カリフラワー、ハナキャベツ、ハナヤサイ

GE: カリフラワー、花キャベツ

SE: カリフラワー、ハナヤサイ

しかし、ここで意味の把握を止めてしまうと次の文の意味が不明のままになる。“The man has a cauliflower ear.” 柔道や格闘技系のスポーツをする者によく見られる、耳たぶがつぶれかけている状態である。日本語では「餃子耳」と称するようだ。体の一部が英語では野菜、日本語では出来上がった料理に喩えられている。異文化の喩えの違いを知るきっかけになる。

(4) CHEESE

日本でも古くから親しまれている乳製品である。3冊の辞書の説明は以下の通りである。

RH: チーズ；(個々の) チーズ

GE: チーズ；(特定の形にした) チーズ (1 個)

KE: チーズ；(一定の形に固めた) チーズ

しかし、チーズも cauliflower と同様に別の物(事)に喩えられる。この場合には

味ではなく、「匂い」である。“cut the cheese”とは「放屁する」ことを表わす。チーズを切った際の匂いである。日本でもお馴染みの食品だが、日本語では匂いに関する喩えがないことで視点の違いが分かり興味深い。日本食で匂いがあるとされる「納豆」にはこの種の喩えはあまりない（日本語辞書にあるのは「粘り」のみである）。さらに cheese は日本でもよく食される cheesecake と関連する。語源は不詳だが、女性のセミヌード写真を意味する。それに対する男性物の場合には beefcake と称される。少なくとも食べ物が食することができない別のものを意味するということが異文化の視点を学べる好材料である。

(5) PIZZA

「ピザ」も日本でよく食されている。3冊の辞書は以下の説明を記している。

RH: ピッツァ, ピザ (パイ)

GE: ピザ, ピッツァ

KE: ピザ, ピッツァ, ピザパイ

一昔前にはよくピザパイという名前も聞かれたが、現在ではピザが通り名である。しかし、食べ物は別の何かに喩えられる、という公式を当てはめると以下の語句にも異文化を知る価値が分かる。“pizza face”の直訳では「ピザのような顔」なのだが、一昔前ではピザパイと称したが故に「丸顔」を連想することも多いが、否、「あばた顔」を意味する。ピザの表面にはトッピングが散りばめられているからである。逆に日本語で悪い意味ではないが「瓜実顔」がある。植物の種を女性の顔に見立てた表現である（多分、それは食しないと思う）。

(6) QUICHE

「キッシュ」も日本でも出回るようになった。三冊の辞書も筆頭にカタカナ名を載せている。

RH: キッシュ：パイ料理の一種…

GE: キッシュ

KE: キッシュ

この食べ物もカタカナ表記で辞書の読みを留めなければ興味が湧く。RH と KE の両辞書に「女性的な食べ物」と記されている。さらに KE では“Real men don't eat quiche”で「冗談交じりの決まり文句」とも記されている。この文言は Stephen King の Bag of Bones (『骨の袋』) にも登場する文句であるが、これが「冗談交じり」であることを理解していないと大きな誤解を生むことになる。「冗談」の文句の出どころはイラスト入りの同名のユーモア本である (Feirstein, 1982)。幼い頃には誰しも洋の東西を問わず、男性の色、女性の色なるものを経験している。食べ物にもこの種

の固定観念があるということに異文化研究の面白さがある（このパイ料理が好物であった筆者にとっては嬉しい発見であった）。

(7) RAVIOLI

英和三辞書でも「ラビオリ」として記されている（『大辞泉』『大辞林』『広辞苑』においても同様）。

RH: ラビオリ

GE: ラビオリ

KE: ラビオリ

一見興味深い記述がないように思えるが、RH のこの語の用例には Chinese ravioli を「餃子」としている。喩えは最も身近なものを基に、新しいものを表わすことが基本である。そうになると、Chinese ravioli も納得が行くが、同辞書には gyoza も chaotzu も別だてで「餃子」と記されている。実際には餃子の方が ravioli より古いもののはずだ。一見辞書内で矛盾が生ずるようだが、喩えの基本から考えると、無理からぬことである。

少々脱線が許されるのであれば、日本人人気歌手の安室奈美恵が引退した際に、英字新聞では彼女を Madonna of Asia として報道していた。

(8) TENDERLOIN

日本でも食され親しまれているステーキの一部である。3冊の辞書は筆頭の説明として以下のように記している。

RH: テンダーロイン：牛肉・豚肉の腰の上部から肋骨にかけての柔らかい上肉

GE: テンダーロイン：(米) では sirloin の上肉

KE: テンダーロイン：ヒレ肉

これらの記述には「上肉」としての共通する点があるが、さらに次項の説明ではニューヨーク市のテンダーロイン地区を挙げている。RH はその歓楽街の警察がギャングから収賄を受け取っていたことからこの上肉を食していたと記している。地名で汚名が肉の代表格になっているところが興味深く、ユーモラスなところである (Random House Webster's Collegiate Dictionary にも同じ記述がある)。さらに、RH では sirloin の語源もユーモアによるものだとしている (Collegiate Dictionary にはない)。英和辞書が異文化の「ユーモア」に注目していることが分かる。RH は汚名とは逆に上質の Kobe beef を項目立てて記載している。この種の場所から出発した名詞を eponym と呼ぶが、この例も「カタカナ」表記を受け入れながら辞書で意味を吟味することで異文化学習の楽しさを経験できる。

(9) VANILLA

日本中どこでも誰にでも食されているアイスクリームの風味となる植物である。三冊の辞書には以下の記載がある。

RH: バニラ

GE: バニラ

KE: バニラエッセンス

この植物を使ったアイスクリームがバニラアイスクリームである。「誰もが」食しているが故に「平凡」を意味することになる。しかし、日本語辞書の三冊（大辞泉、大辞林、広辞苑）に当たってみても「平凡」の記述はない。冒頭で記した「食」が「人間」そのものを表す例になる。もしかすると日本語の中にある食品関連でネガティブな意味で使われるものはあまり多くないのかも知れない。「食」が人間そのものを意味することは、“What you eat is who you are” から生ずると考えると極めて自然なことかも知れない。併せて日本語の「医食同源」と比較すると異文化・自文化理解が深まることになる（「医食同源」の意味は英語の諺の意味とは異なる）。

(10) OREO

日本でもアメリカから輸入されて親しまれているクッキーだが、国語辞書三冊では「大辞泉プラス」のみで紹介されている。しかし、当然 RH の以下の喩えとしての意味は記されていない。

RH: オレオ：白人中産階級の価値や生活・行動様式を見につけた黒人…

GE: オレオ…

KE: オレオ…

英和 3 冊で共通の事項は、筆頭の説明か次の項の説明かで黒いクッキーが中身の白いクリームを挟んでいることから黒人蔑視の意味が派生していることを示している。因みに中型辞書「リーダーズ英和辞典 / プラス」、「ジーニアス英和辞典」も同種の蔑視の意味を記している。「物」が異文化へ移植・輸入された場合にはこの種の喩えからくる意味は付いてはこない。「カタカナ表記」はこの種の問題が生ずる。カタカナ語は注意しなければ、表面の意味のみで定着する可能性があるが、注意を怠らなければ異文化コミュニケーションを掘り下げて考える場合の良い言語材料の一つとなる。RH では《米黒人俗語》としてマシュマロで「白人」と記している。さらに「バナナ」で「白人かぶれの東洋人」ともしている。これに関して「外側が黄色で中は白いことから」と説明がある。Coconut も「白人のまねをする黒人」としている（中が白いことから）。語にも蔑視の視点があることを知ることも異文化コミュニケーションにとっては大切なことである。

(11) LETTUCE

古くは「チシャ」として呼ばれていたが、現在では「レタス」と称されることが普通である。三大英和辞書の説明を記す。

RH: レタス

GE: チシャ、サラダ菜、レタス

SE: チシャ、レタス

ここでも事項及び末尾の説明として共通することがある。ドル紙幣の裏面が緑色であることからレタス色と同一視されドル紙幣に喩えられる。しかし、緑の野菜類はいくらでもあるが、その全てがドル紙幣の意味を担ってはいない。例えば、ホウレン草は否、しかし、キャベツ、ブロッコリー、ケールが該当する。当然、先述の国語辞書三冊には同種のことは記されていない。日本語では紙幣にある人物名が代用される。この違いにおいても異文化教育の可能性を感じさせる。

(12) LEMON

この語「レモン」から第一番目に受けるイメージとしては「爽やかさ」である。英和辞書三冊に筆頭の説明もカタカナ表記である。しかし、辞書を読み続ければ同じイメージではないことが理解できる。

RH: レモン (の実)

GE: レモン (の実)

KE: レモン (の実)

三冊とも「欠陥品」か「欠陥車」の意味を添えている。しかし、日本語では「爽やかさ」を表しているとの但し書きも記されている。日本語 3 大辞書で唯一『大辞泉』が、(米語で) 欠陥品、欠陥車の記述を残している。筆者の鮮明な記憶としては一世風靡したラジオパーソナリティ落合恵子の愛称が「レモンちゃん」であった。このことから日本語的感性と英語的感性が衝突することが分かる。異文化・自文化理解にとって重要な点である。

(13) NOODLE

RH: ヌードル

GE: ヌードル

KE: ヌードル

この語にも GE には喩えが記されている（「ばか」「まぬけ」）。RH と KE にしても noodlehead では同じ意味である。さらに RH では noodle Western を「日本製西部劇」としている。この語は spaghetti western と和製英語の macaroni western を連想して作られたと思われる。先述でも “What you eat is who you are.” の延長の喩えを記したが、

ここでも同じく当てはまる。さらに、脳の図解を参照すれば、表面がヌードルの形状をしていることから来た喩えだとも分かる。

5. ブログ内のカタカナ語の使用状況

前節では、主に複数の英和辞書を資料として日本語におけるカタカナ語を観察した。一方で、実際の言語使用においてカタカナ語の使用状況を把握することも、カタカナ語を利用した異文化コミュニケーション教育の計画・実践に向けて重要である。従ってこの節では、今後の研究の第一歩として、ブログ内で使用されているカタカナ語を分析し、日常的にカタカナ語がどれだけ使用されているのかについて概観する。ブログ内で使用されている言葉は話し言葉と書き言葉の中間にあたり、普通の言語使用を観察することが可能であり、また、様々な世代のブロガーによる様々なトピックが観察可能である。従って、日常会話と同様カタカナ語の使用状況を観察するには有益な情報源であると言える。

今回はパイロット・スタディとして、アミーバブログに掲載された芸能人・有名人のブログをデータとして使用した。ウィキペディアの「アミーバブログ」の項目では、サイバーエージェントが運営するインターネットサービスである Ameba 内のレンタルブログサービスと説明している。サイバーエージェントの HP によると、現在 2 万人を超える芸能人・有名人がアミーバブログをオフィシャルブログとして利用している。

今回データとして利用したブログ及びブログ内の記事は、以下の手順で選択した。

(14) ブログ及びブログ内の記事の選択方法

- (i) アミーバブログの芸能人・有名人のブログで 2022 年 8 月 15 日午後 11 時 9 分時点での総合ランキングの 1 位～ 30 位のブログを選択した。
- (ii) 2022 年 8 月 15 日午後 11 時 9 分～ 11 時 21 分の 12 分間に各ブログに順次アクセスし、その時点での各ブログでの最新記事をデータとして選択した。

本稿末の資料 1 は、上記の方法で収集したブログのタイトル、執筆者、及びブログ記事のタイトルをまとめたものである。

上記の手順で収集したブログ記事からカタカナ語を収集した。本パイロット・スタディでのカタカナ語の定義及びその収集方法は以下のとおりである。

(15) カタカナ語の定義及び収集方法

- (i) カタカナで表記されている語で、少なくともその一部が英語を主とする外国語（特にヨーロッパ語）に由来するものを「カタカナ語」とする

- (ii) (i) に基づく「カタカナ語」が複数語連続している場合、各々を個別にカウントせず、その連続体を1つの語としてカウントする
- (iii) 「カタカナ語」は記事の本文のみから収集する

上記に関して補足すると、(15-i)の「カタカナ語の定義」に関して、対象となる語を日本語の発音に基づいて表記された語句(例:ストレス(= stress)、フック(= hook)、等)のみならず、いわゆる和製英語(例:サイン(autographの意味で)、ベビーカー(strollerの意味で)、等)や省略語(例:エアコン(= air conditioner)、リピ(= repeat)、等)、商品名や映画のタイトル(例:マイスリー、ジュラシックパーク、等)も対象とした。また(15-ii)に関して、例えば「ピアノレッスン」はカタカナ語が2つ連続していて1つの表現を作っている為1つの語としてカウントした。一方で、「ゴルフのレッスン」は「ゴルフ」と「レッスン」の間に日本語の所有格を表す助詞「の」が入っている為、それぞれ別のカタカナ語とし2語とカウントした。最後に(15-iii)に関しては、ブログの本文として載せている文章は全て対象とし、その中に現れるカタカナ語は全て収集した。また、ALEXANDERと川崎希の両ブログには、2人の所属事務所が運営しているウェブショップの商品紹介が記事本文中に掲載されているが、¹これも記事のメインの内容の直後に特に分けることなく掲載されている為、対象とした。

上記でも述べた通り、この研究の目的の1つは「カタカナ語の日常的な使用状況の確認」である。従って、今回のパイロット・スタディでは主として次の3点について調査した。

(16) パイロット・スタディにおける調査項目

- (i) カタカナ語を最低1語でも含むブログ記事はいくつあるか
- (ii) 使用されているカタカナ語の種類とそれぞれの出現回数はどうなっているか
- (iii) カタカナ語の使用とブログ作成者の年齢に関連性はあるか

以下で、各調査項目の結果をまとめる。まず調査項目(16-i)と(16-ii)に関して、30の記事の内25の記事(83.3%)でカタカナ語が最低1回は使用されていた。²また、(15)の条件に基づいて収集したカタカナ語の種類は115種類で、総数は242個になった。表1は、各ブログ記事での「種類別カタカナ語数」と「カタカナ語総

¹ この商品説明の大半が同じ内容となっており、会社として作成した文章か、あるいは2人の内どちらかが執筆したものを再利用した可能性がある。しかし、ブログや記事が個別のものである為、両方の記事の文章をデータとして採用した。

² 小数第2位を四捨五入。以下同様。

数]を示している。各セル内の各丸囲み数字は資料1の各ブログの番号を表している。また各記事での「種類別カタカナ語数」は「○語（○は数字）」で、「カタカナ語総数」は（ ）内に数字のみで示す。

表1. 各ブログ記事での「種類別カタカナ語数」と「カタカナ語総数」

① 2語 (2)	② 1語 (1)	③ 2語 (5)	④ 1語 (1)	⑦ 18語 (45)
⑧ 1語 (1)	⑨ 2語 (2)	⑪ 35語 (55)	⑫ 1語 (1)	⑬ 3語 (3)
⑭ 4語 (4)	⑮ 11語 (14)	⑯ 1語 (1)	⑰ 5語 (11)	⑲ 2語 (3)
⑳ 1語 (2)	㉑ 3語 (3)	㉒ 1語 (1)	㉓ 2語 (2)	㉔ 3語 (3)
㉕ 4語 (4)	㉖ 10語 (14)	㉗ 35語 (56)	㉘ 2語 (2)	㉚ 6語 (6)

表1から分かるように、「種類別カタカナ語数」が1語の記事は7つあり、その内「カタカナ語総数」も1語の記事は6つである。勿論記事の長さや内容、ジャンル等にも左右されるが、今回のパイロット・スタディで1つの記事で2種類以上のカタカナ語が出現する割合は72%（25記事中18記事）と高い（「カタカナ語総数」が2語以上の割合は76%（25記事中19記事）となる）。

次に、115種類のカタカナ語それぞれの出現回数に焦点を当てると、67種類（58.3%）が全ブログ記事を通して1度しか使用されていない。その一方で、48種類（41.7%）のカタカナ語が複数回出現しており、内訳は以下の通りである：出現回数2回＝27語（ジュース、アルミ、等）、出現回数3回＝5語（サイン、パパ、等）、出現回数4回＝10語（タイプ、スーツケース、等）、出現回数5回＝1語（ゴルフ）、出現回数7回＝1語（ケア）、出現回数8回＝1語（ノベルティー）、出現回数10回＝1語（リュック）、出現回数16回＝1語（ポケット）、出現回数20回＝1語（コメント）。

では、この48種類のカタカナ語は25記事中いくつかの記事で出現しているのか。例えば、最も多く出現した「コメント」（20回）は、えりのブログ記事のみで出現した。また7回出現した「ケア」も秋野暢子のブログ記事のみで見られた。このように複数回出現するカタカナ語がある1つの記事のみで見られるというケースは10種類のカタカナ語で見られた。一方で、25記事中2つの記事で見られた語は全部で35種類、3つ以上の記事で見られた語はわずか3種類である。4つ以上の記事で見られた語は1つもなかった。また2つの記事で見られた35種類のカタカナ語の内、30種類はALEXANDERと川崎希の両ブログ記事内の同一内容の商品説明の文章で見られた語である。従って、コンテキストが全く異なる記事で現れたカタカナ語は実際には5種類となる。

以上のことから、記事の長さや内容、ジャンルに左右されるものの、実際に多くの

ブログ記事でカタカナ語が使用されていること、また記事内で見られるカタカナ語の種類は多岐にわたることも分かった。これらの事実から、私たちはカタカナ語を日常的によく使用している、と言えるだろう。

次に調査項目(16-iii)に関して、表2は各ブログ記事の執筆者(ブロガー)の年代とカタカナ語の使用の有無をまとめたものである。³

表2. ブロガーの年代とカタカナ語使用の関係

年代	30代	40代	50代	60代	70代
各年代のブロガー数	13名	10名	3名	3名	1名
カタカナ語を含む記事の件数	11件	10件	2件	2件	0件
カタカナ語を含む記事の割合	84.6%	100%	66.7%	66.7%	0%

表2から、今回の30の記事に関しては70代を除く全ての年代のブログ記事でカタカナ語が使用されていることが分かる。今回は、総合ランキングの1位～30位のブログをデータとした為、各年代のブログ数、特に30～40代と50～70代とでかなりの開きがでた。また各ブログから1つの記事を選びカタカナ語の使用状況を調査した為、そのブロガーのカタカナ語の使用状況が正確に把握できているわけではない。しかしながら、上記の表が示している通り、70代を除き広い世代でカタカナ語の使用が見られることから、幅広い世代でカタカナ語が普及し、日常的にカタカナ語を使用している可能性が高いと言えるだろう。

ここまでパイロット・スタディとして、30のブログ記事を利用して実際の言語使用におけるカタカナ語の使用状況を調査してきた。結果として、カタカナ語が日常的に使用されており、その種類は多岐にわたること、そして幅広い年齢層にカタカナ語が普及していることが分かった。但し、今回はパイロット・スタディの為、実際の言語使用を観察する方法として限定された数のブログ記事のみを観察している。従って、データ収集方法や実際に収集されたデータ数等がまだ十分とは言えない。このことを踏まえ、第6節では今後の研究の展望について述べていく。

6. まとめと今後の展望

本稿では和英辞書3冊(RH, GE, KE)の食に関する語をデータとして採り上げた。この種の語は現在、約250を収集している。その中で日本人にとって馴染み深く、カタカナ表記が筆頭の説明としているもの12の語を選択した。一般的に言うと、辞

³ 30人のブロガーの中にはブログ内で年齢を公表していない人もいたが、ウィキペディアやネット記事を参考に年齢を確認・推定している。

書でカタカナ表記を見るとそのままを記憶・理解してしまう傾向がある。しかし、複数の辞書に当たり詳しく読み続けると、異文化理解が可能になることが分かる。むしろ、限られた辞書のみを使用したり、あるいは詳しく読み続けることを怠ったりすると、異文化と自文化を誤解してしまうことになる。以下に本稿で分かったことを巨視的にまとめて記すことにする。

(17) 英和辞書内の飲食物の第1訳がカタカナ語となる語彙項目に関するまとめ

- カタカナ英語を無制限に使うことは異文化と自文化の両方を誤解する恐れがある。
- しかし、注意を怠らずカタカナ英語を吟味していけばむしろ両方の文化を深く理解することに繋がる。

本稿ではまた、実際の言語使用におけるカタカナ語の使用状況も調査した。パイロット・スタディとして総合ランキング1位～30位のブログから記事を1つずつ選びどのような種類のカタカナ語がどのくらい現れているかを調査した。その結果分かったことを以下にまとめる。

(18) ブログ記事内のカタカナ語の使用状況に関するまとめ

- 記事の長さや内容、ジャンルによって大きく影響を受けるものの、多くの記事で多種多様なカタカナ語が使用されている。
- カタカナ語は幅広い世代に普及している。

最後に、今後の展望として、以下のことを視野に入れて研究を進めていきたい。

(19) 以後の研究課題

① 英語の動画字幕で 사용되는カタカナ語の分析

現代は英語の動画媒体の種類が豊富である。映画、テレビ番組、Facebook、YouTube(動画と歌)、インスタグラム等の中での字幕にみられるカタカナ語の傾向を観察する。これからの異文化コミュニケーションの研究に寄与するには、この種の娯楽を兼ねたコミュニケーションの媒体にも焦点を当てるべきだと思う。

② 小・中学生のカタカナ語の知識

先述したが、カタカナ語はもはや「若者ことば」では収まらない傾向にあると思われる。本稿でも小学生が使用するカタカナ語には触れていない。手始めに小学生用に編集された「国語辞典」「英語辞典」のデータを収集分析することにする。意外に小・

中学生といった児童・生徒が当然として受け入れているカタカナ語が、成人には未知のものもあるかも知れない。ここに焦点を絞ると同一文化内のコミュニケーションの問題点を見出すことが可能になることもある。

③ ブログ記事内のカタカナ語調査の発展

今回のパイロット・スタディでは、ブログ記事を利用してカタカナ語の使用状況を調査したが、世代別のブログ数に偏りが見られた。また1つのブログから選択した記事も1つだけであったため、そのブログの執筆者が本当にカタカナ語を使用しないのか明確な答えを出すことが出来ない。さらに、性別や職業、記事のジャンル等、様々な要因もカタカナ語の使用に影響を及ぼす可能性がある。従って、今回のパイロット・スタディをさらに発展させ、多くのブログ記事でのカタカナ語の使用状況を調査したい。

④ 対象とするデータの拡充

日本人の言語使用におけるカタカナ語の使用状況を観察する為に、他にも日常会話や対談、講演といった日常的に行われる自然談話、ドラマ・映画といった疑似自然談話等、利用可能なデータは数多く存在する。様々なタイプのデータを用いることで、日本人のカタカナ語の使用状況がより明確になるものと考えられる。

⑤ 新しい概念を理解するプロセス

日本人であっても、初めに英語の語彙と概念で何らかの知識を得て、その後日本語でそれがどう表されているのかを知るといった知的道のりを通ることがある。例えば、“roadkill”という語は、日本語では「路上轢死」または「路上轢死動物(者)」と訳される。一方で、そのままカタカナ語として「ロードキル」のみの語彙で留まる場合もある。逆に、「路上轢死」あるいは「路上轢死動物(者)」を初めに学習する場合もある。このような新しい概念を理解するこの種の知的道のりを、大学生を手初めにして調査する。

⑥ カタカナ語の分類と使用頻度

私達が日常的に使用しているカタカナ語は、(a) 意味は外国語のそれと同じだが発音を日本語の音韻に合わせたカタカナ語、(b) 元の外国語を形態的・意味的に変化させたカタカナ語、の2つに大別できるだろう。また河口(2004, pp.15-18)では、上記の(b)に該当する和製英語を5つに分類している。では、私達が日常生活で使用するカタカナ語において、使用頻度が高いカタカナ語はどのような種類の語なのだろうか。日常的な言語使用で見られるカタカナ語を分類し使用頻度を分析することで、カタカナ語の実態がさらに見えてくるであろう。

資料 1. 使用したブログに関する情報

以下で、ブログタイトル：記事タイトル、の形式で示す。但し、ブログタイトルがない場合は、「○○オフィシャルブログ」（○○は作成者の氏名）のみを示す。またブログタイトルに作者名がない場合は、最後に作者名を（ ）に入れて示す。

- ① 堀ちえみオフィシャルブログ「hori-day」：「Wa・ショイ」動画です！
- ② だいたひかるオフィシャルブログ：いろんな表情
- ③ 桃オフィシャル：毎年楽しみな日！お酒――！
- ④ クロオフィシャルブログ「クロリサと呼ばれて…」：じいじの孫愛♡♡♡
- ⑤ 才賀紀左衛門オフィシャルブログー全力投球ー：震えた事ある？
- ⑥ 松居一代オフィシャルブログ：すべては厳選した調味料です
- ⑦ えりオフィシャルブログ「才賀家の映えない日常」：いつもありがとうございます
涙
- ⑧ クワバタオハラ小原正子オフィシャルブログ「女前。」：おかえり、そして☆
- ⑨ 尾形あいオフィシャルブログ「サンキューー！！尾形家です！ by 嫁」：グズグズ夜泣き？
- ⑩ 坂上忍オフィシャルブログ「綺麗好きでなにが悪い！」：79 円のぼるちえ
- ⑪ アレクサンダーオフィシャルブログ「ねこのしっぽ欲しいな」：イケメンちゃんとアキバ (ALEXANDER)
- ⑫ 川島菜月オフィシャルブログ：男同士の絆
- ⑬ 石田あゆみオフィシャルブログ「嫁ログ」：プチ★おうち夏祭り
- ⑭ 小林礼奈オフィシャルブログ「小林礼奈のブーブーブログ」：子供のころから来てる温泉施設
- ⑮ 桜井奈々オフィシャルブログ「NANA 色ゆめ日記～発達障害児とのゆかいな日々～」：新たな共通の楽しみ
- ⑯ 小泉貴之オフィシャルブログ「大丈夫」：ますますお風呂が気持ちいい
- ⑰ 秋野暢子オフィシャルブログ「スマイルライフ」：緩和ケアチームの登場
- ⑱ 渡辺美奈代オフィシャルブログ「Minayo Land」：2 日続けて
- ⑲ 桃の旦那しょうくんオフィシャルブログ：ゼロ距離
- ⑳ 杉浦太陽オフィシャルブログ『太陽のメッサ〇〇食べ太陽』：今日はいろいろ
- ㉑ 宮崎謙介オフィシャルブログ「前向き宣言」：新規の海
- ㉒ 高橋真麻オフィシャルブログ「マーサ！マーサ！タカハシマーサ！」：お取寄せラーメン
- ㉓ 武東由美オフィシャルブログ「MOTO ちゃんとはっぴいな毎日」：ポンポン

- ②④ 藤原家の毎日家ごはん。：撮影してたら突然母がきました～！！（みきママ（藤原美樹））
- ②⑤ 山田花子オフィシャルブログ「山田花子のブログってなに？」：ダンス
- ②⑥ 上原さくらオフィシャルブログ：娘の夜ご飯
- ②⑦ 川崎希オフィシャルブログ「のぞふいす'sクローゼット」：お蕎麦♡
- ②⑧ 2700 ツネの嫁オフィシャルブログ「息子3人+ツネ」：明日はいよいよ
- ②⑨ 高橋英樹オフィシャルブログ：おやすみ☆黒糖わらび餅
- ③⑩ 細川直美オフィシャルブログ「Siesta」：もう20年以上前に購入した

参考文献

書籍

- Feirstein, Bruce. (1982) *Real men don't eat quiche*. Hodder & Stoughton, Ltd.
- 沖森卓也・木村義之・田中牧郎・陳力衛・前田直子（2011）『図解日本の語彙』三省堂。
- 河口鴻三（2004）『和製英語が役に立つ』文藝春秋。
- 鈴木孝夫（1975）『閉ざされた言語・日本語の世界』新潮社。
- 山口仲美（2007）『若者言葉に耳をすませば』講談社。

辞書

- 研究社新英和大辞典第6版（2014）研究社。
- 広辞苑第6版（2008）岩波書店。
- ジーニアス英和大辞典（2004）大修館書店。
- 小学館ランダムハウス英和大辞典第2版（1994）小学館。
- スーパー大辞林（2008）三省堂。
- デジタル大辞泉（2008）小学館。

ウェブサイト

- アユーラ公式サイト「アユーラについて」
 (<https://www.ayura.co.jp/about/>) 2022年8月22日閲覧。
- ウィキペディア「アメーバブログ」
 (<https://ja.wikipedia.org/wiki/アメーバブログ>) 2022年8月28日閲覧。
- 公益社団法人日本薬学会「健康豆知識：薬の名前の由来」
 (<https://www.pharm.or.jp/mame/20150101.shtml>) 2022年8月22日閲覧。

CyberAgent 「Ameba」

(https://www.cyberagent.co.jp/service_product/id=20344) 2022年8月28日閲覧。

Sirabee エンタメ「キンコン梶原、“カジサック”の由来に驚きの声『急に好きになった』」

(<https://sirabee.com/2019/09/03/20162156022/>) 2022年8月22日閲覧。

高崎総合医療センター 「コーヒーブレイク くすりのなまえ」

(<https://takasaki.hosp.go.jp/rk/chiken/34.pdf>) 2022年8月22日閲覧。

文化庁 「平成19年度『国語に関する世論調査』の結果について」

(https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/h19/)

2022年8月31日参照。